

ADドメインサービス/AD証明書サービス/ Exchange Server移行

背景

ハードウェア・ソフトウェアの保守切れによるシステムリプレイスは、システムのライフサイクルの中で不可避なイベントです。多くのシステムは認証基盤を中心に複数の機能が連携するため、ユーザーへの影響を最小限にするためには入念な準備が必要となり大きな労力を要します。

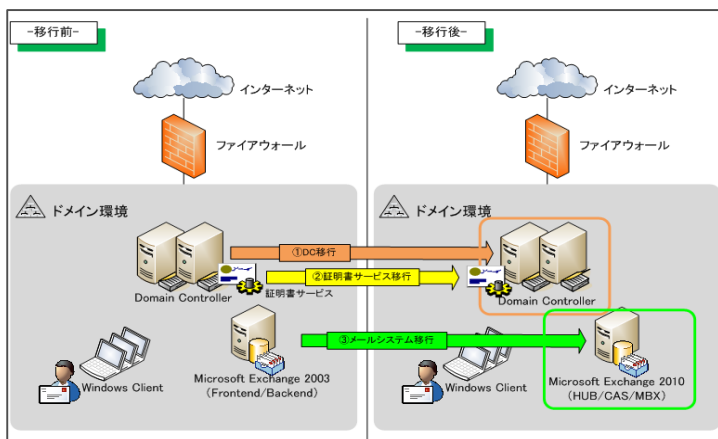
今回ご紹介する事例では、認証基盤は「Active Directoryドメインサービス」、クライアント無線LAN接続認証を行う「Active Directory証明書サービス」、メール基盤「Exchange Server 2003」を連携して使用されており、お客様はこれらのシステムのリプレイスを計画されていました。移行に際して、システムの利用者に及ぼす影響を抑える必要がありましたが、前述した機能に長けた技術者が社内におらず苦慮されていたそうです。そうした中、システム移行の実績のある弊社にお声がけ頂き、ご支援させて頂く運びとなりました。

概要

作業規模	<ul style="list-style-type: none"> 既存サーバー環境 <ul style="list-style-type: none"> ドメインコントローラーサーバー: 2台 Exchangeサーバー: 1台 新サーバー環境 <ul style="list-style-type: none"> ドメインコントローラーサーバー: 2台 Exchangeサーバー: 1台 ユーザー数: 約350人
作業期間	5ヶ月
作業人数	2人

システム構成

全体構成図

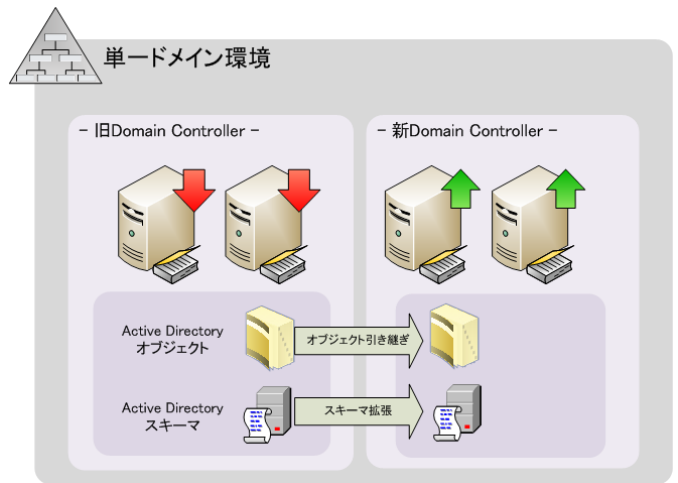


作業内容

1.Active Directoryドメインサービス移行

概要: ドメイン名/ホスト名/IPアドレスを引き継いでWindows 2003からWindows 2008 R2へDC移行

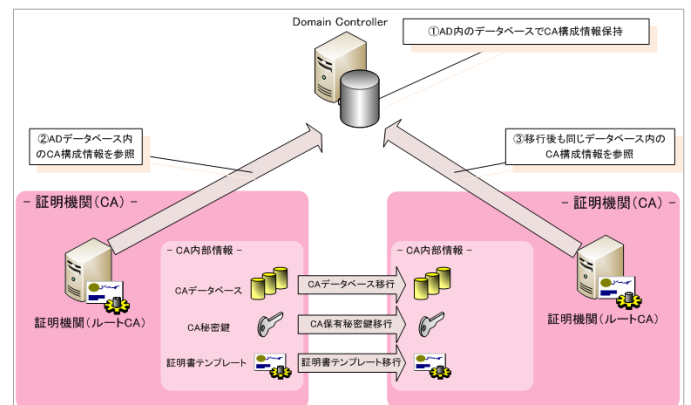
1. 新Domain Controllerドメイン昇格
2. LDAPデータベースレプリケーション
3. 旧Domain Controllerドメイン降格



2.Active Directoryドメインサービス移行

概要: エンタープライズCAをCA名/CAデータベース/CA秘密鍵を引き継いで新規サーバーへ移行

1. 新規証明機関構築
2. CAデータベース/秘密鍵移行
3. CALレジストリ/CAポリシー移行
4. 証明書テンプレート移行



1. Microsoft Exchange Server バージョンアップ/移行 (ユーザーメールボックス移行)

概要: Microsoft Exchange 2010へメールボックス・パブリックフォルダー・その他Exchange機能の移行

1. Exchange 2003 - 2010間のルーティンググループコネクタ作成
2. メールボックス/パブリックフォルダー/Exchange機能移行
3. Exchange連携アプリケーション機能/データ移行
4. ウイルス対策ソフト設定移行
5. Exchange 2003機能削除

